

みんなちがって、みんないい!

## 自分の感じ方・考え方を大切にしよう!

わたしは、学校がすきだよ。だから、みんなも学校がすきだと思っていたよ。でも、この本を読んでみたら、そうではなかったんだ。「大っきらいだよ。」と言う男の子や「学校いやだ!。」と言うそばかすの女の子がいた。ふしぎだな。なんできらいなんだろう。

自分が学校をすきなりゆうを考えてみたら一番に頭にうかんだのは、なかよしのともだちのことだったよ。しゅみがにているともだちと、お絵かきしたり、ダンスをおどったりすると、すぐたのしくなるんだよ。

「この本の学校には、いろいろな子がいる。給食の時間におかしなことを言ってるわらわせる子や、わらってぎゆうにゆうをふきだす子がいる。わらっている子の中には、かみの毛が金色やちや色の子がいる。はだの色が黒っぽい子もいれば、はだ色の子もいる。こんな風にいろいろな子がいるのが学校なんだなと思ったよ。そして、いろいろな子に、それぞれいところがあるんだね。そばかすの女の子にもとくいなところがある。それは、絵をかくこと。学校の絵をそっくりにかけるんだよ。その絵を見て、学校のいがいがした気もちが、少しきえていったきがしたよ。

いろいろな子がいるから学校はすばらしいんだと思ったよ。道徳の時間のことを思い出してみた。ともだちは、わたしとちがって、ボールけりを続けるといういけんだった。「どうして?。」と、りゆうを聞いてみて、わたしはなるほどと思っただ。その子のおかげで自分とちがうかいけつほうほうを知れたよ。

今は、夏休み。子どもがいなくて、学校はさびしいんじゃないかな。わたしは、しんぱいになって学校に会いに行ったよ。そつと見てみると、しよつこう口の時計がわらっている目のように見えた。「みんながくるのをまつてるよ。」と、ほえんでいるみたい。

わたしは、二学期もたのしく学校に行くよ。今までよりももっとたくさんの子とあそんで、いろいろな子のいいところを見つけない。